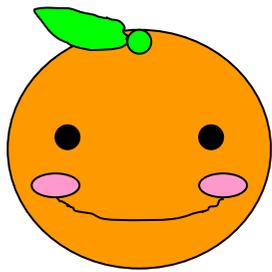


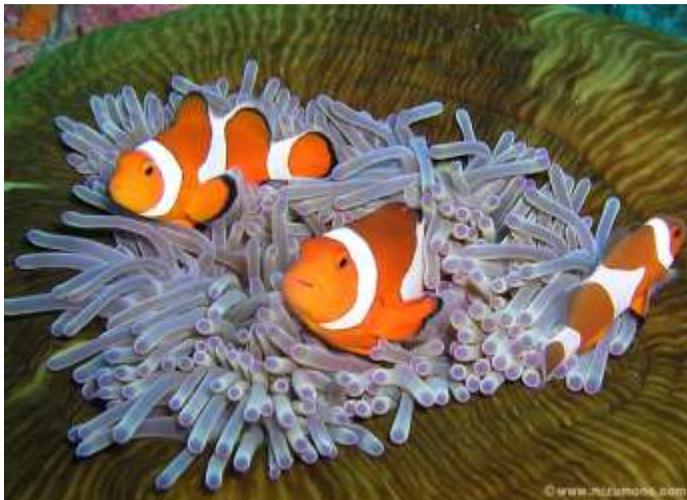
愛媛県医療ソーシャルワーカー協会会報



いよ刊

第
10
号

2015年5月



目次

巻頭言	1
初任者の頃を振り返って	2
研修報告	5
投稿写真	10
発見！！いよワーカーさん★	11
施設紹介	14
部会紹介	16
編集後記	17

*** 巻頭言 ***



「さあ、研修に参加しよう！」

愛媛県医療ソーシャルワーカー協会 理事

松山リハビリテーション病院 ^{まつだ} 松田 まどか

医療ソーシャルワーカーという職業に憧れ、この世界に飛び込んで早いもので14年目を迎えました。諸先輩方にも恵まれ、医療ソーシャルワーカーという職種が病院組織の中に根付いた環境の中で、仕事をスタート出来たのは今振り返っても非常に幸運な事であったと感じます。また、入職と同時に当協会にも入会し、定例会や研修などに参加する中で得られた人と人とのネットワークは何物にも変えがたい宝であると思っています。

自分が新人の頃に緊張しながら参加した基礎研修や合宿研修において、先輩たちや他機関の医療ソーシャルワーカーからかけてもらった言葉の数々に支えられて今の自分があることを思い出しながら、現在は研修担当の理事として研修の企画・運営に携わせていただいています。しかし近年、研修会への参加者が二極化しており、いわゆる中堅層の医療ソーシャルワーカーの参加が減少していることに寂しさを感じています。

医療ソーシャルワーカーという職種はまだまだ数が少ない職種であり、一人だけで乗り越えて行けるほど医療現場は生易しくなく、より高い専門性を求め続けられます。「誰か」に支えられて乗り越えた経験、苦しい状況の中で得た「気づき」を是非研修会などで後輩たちに伝えてあげてほしいと強く感じます。「自分にもそんな経験があるよ。分かる、分かる。」そこから始まる年の近い先輩の体験談にきくと救われる後輩がいるはずですし、体験談を語る先輩には当時を振り返り初心に帰る貴重な時間になるはずです。苦しみや葛藤を同じ立場で共有してくれる同世代の言葉には、経験豊富な先輩からの助言とは違うパワーが確実にあるのですから。

経験年数で参加制限を設けている研修は基本的にありませんので、積極的に参加して頂きたいと思います。そして、皆さんの声を聞かせて下さい。会員全員で共に成長し合える協会を作り上げるために、皆で協力していきましょう。

* * * 初任者の頃を振り返って * * * * * * * * *



ベテル在宅療養支援センター

にのみや ゆきこ
二宮 由紀子

学生時代、MSWに憧れて就職したものの想像以上に大変な職業でした。MSWの実習も経験し選んだ仕事でしたが、大学の実習で経験するもとのとは全く違ったものでした。何が違うのかなと考えたとき一番に浮かぶのが、社会人としての責任です。人が考えたものをこなすのではなく、自ら考え、そこに責任が生まれてくることのしんどさを痛切に感じました。

私の就職したころは、面談となると緊張が強くなり、患者の家族にまともに名刺すら渡すこともできませんでした。頭の中が真っ白になってしまって何を話せばよいのかわからなくなり、沈黙が続くと、怖くて面談室から何度も席をはずし、先輩MSWのところに行って相談する事がしばしばありました。

笑われるかもしれませんが、就職して10年以上たった今、ようやく相手が何を言おうとしているのかに、目を向ける事ができるようになったように思います。相手に言われた通りのことをしているつもりでも、したあとで、「そういう意味じゃなかったんよ」と言われることが多かったのですが「ピンときていなかったな」と感じます。わかるようになったきっかけは、今の部署への異動の影響が大きいと思います。今の部署に代わってから何十回、何百回と看護師と一緒に利用者や家族との面談をする機会がありました。最初の1年はついていくのがやっとで、ひたすらまねをしながら面談をするという状態でした。その時はこまかな意味を理解せず、ただ必死だったのですが、そのうち、看護師の面談の方法が見えたり、患者家族の反応を客観的に見たりすることができるようになりました。又、同じ面談の場面から、お互いのアセスメントを話し合うことで、見えてきたものがたくさんありました。また、私への依頼事も、常にその理由を話した上でしてくれるので、私にとって大きな気づきになりました。私の部署には、根気よく理解できるまで付き合ってくれる同僚がいます。私は、その人たちの存在に感謝しながら、SWとしてこれからも頑張っていきたいと思います。

「初任者の頃を振り返って」



独立行政法人 労働者健康福祉機構 愛媛労災病院

たなか みき
田中 三貴

MSWの仕事を始めて早14年が経過しました。この仕事をしたいと思ったきっかけは高校生の時に観たMSWを主人公にしたテレビドラマでした。主人公が様々な問題にぶつかるたびに東奔西走して解決していく、少し慌しい印象のあるドラマでした。そんなドラマに引き込まれ、多少横道にそれながらもMSWの道を選びました。

私の所属は医事課です。入職当初は、午前中は主に小児科担当の医事業務をして、午後からはソーシャルワーカー業務を行っておりました。日曜日や祝日は急患業務（事務）もしていました。急患には様々な患者様が来院されます。救急車の対応やその他の電話対応、来院された方の対応やカルテ出し等を一人でこなさないとならず、急を要することが多いので、ソーシャルワークとはまた違う意味の緊張感があったのを思い出します。

小児科のレセプト点検もしていましたので、時々、「私、何をやっているのだろう」と思う事もありました。しかし、徐々に医師や看護師、その当時の上司達がソーシャルワーカー業務に集中できる道筋をつくってくれるようになり、今に至りません。もちろん近隣の医療機関のMSWの方達も私の状況を知っているので、当時から励まし続けて下さいました。本当に有り難いことです。

入職して数年は、レセプト業務や急患業務に対しては、そんなに自分なりに意味も持たずやり過ごしていた様に思います。しかし、今あの頃を振り返ってみると、診療報酬を考えて動くことや医療事務の仕事などを知る事によって、少し幅広い目で病院の仕事が出来る礎になったのかな、と思ったりもします。まあ、まだ見えていない業務や会得しなければならないスキルが待っていますが（汗）

日々の業務は退院調整や経済的は問題の支援が殆どで、日々、連絡調整や面談、カンファレンスや役所等への手続きに追われて、冒頭の記しましたドラマの主人公の様に東奔西走しておりますが、ドラマの様に一話完結で、すぐ解決しないのが現

実のようです(笑)

また、労災病院という特性上、勤労者医療の推進を求められております。職場訪問をしたり、治療費や治療内容、休職制度等の相談を受けながら、働きながら治療を続けられる両立支援という役割をMSWが担うことを期待され、これまでの業務に加えてどのようにMSWが関わっていけるのだろうか模索している段階です。

日々、反省をしなければいけないことばかりの私ですが、幸か不幸か忘れるのも早いので、こうして十年余り続けてこられたのかなと思います。今までの経験を財産に、それを行動に変えて今後も邁進していきたい所存です。皆様、今後も宜しくお願い致します。



* * 研修報告 * * * * * * * * * * * * * * * * * *



「第9期（2012年） 保健医療分野における ソーシャルワーク専門研修を受講して」

南松山病院 ひらい 平井 みなこ 美奈子

私は2012年8月～2013年8月にかけて、日本医療社会福祉協会が主催するソーシャルワーク専門研修を受講しました。この研修は通信研修（課題レポート）とスクーリング（4日間）があり、実践・連携・管理能力に関する価値・知識・技術をテキストで学び（通信研修）、スクーリングでは演習で養成及び力量確認を行うという内容です。通信研修では、テキストに沿って2か月ごとに3題レポートがあり、定期的に送られてくる課題に対し、日々の業務が終わってから、休みのときなどにテキストや参考資料を読み込んで、全9題のレポートを作成・提出しました。

8月中旬には東京で4日間のスクーリングがあり、講義と演習を受けました。全国各地から主に医療機関を中心に業務をされている56名の方が集まり、それぞれ講義と演習に取り組みました。事前のレポートによる課題をしっかりと頭に入れてスクーリングに臨むことができたため、それぞれの講義や演習で確認や復習をすることができたこと、福祉の大学などでソーシャルワーク等を研究されている著明な先生方の講義と演習を受けられたこと、第一線で働くソーシャルワーカーの方々と話をする中で、改めて医療ソーシャルワークとは何かを考えることができました。

ソーシャルワークはその技術や価値を目に見える形にするのは難しく、私はこれまで苦手な理論を避け、即実践に生かせる内容を取り入れる傾向にありました。しかし、今回じっくり時間をかけて学んだことで、理論が日々の実践に生かされていること、または実践の場面から理論化されることで、私たちが日頃行っている業務とその意味・価値を言語化し、可視化され、伝えていくことができる、ということを感じました。この研修を受けてから、改めて学ぶことで納得するところや、日頃行っている業務がきちんと理論に即しているのかを確認・修正することができました。スクーリングではこれまで学んだことのなかった新しい内容や考え方にとまどう場面もありましたが、今の自分を客観的に見つめる良いきっかけにもなりました。今回学んだことを日々の業務の中で、また協会活動にも今後何らかの形で還元していければと思っています。

* * * * *



「第4回ソーシャルワーカーデー参加して」

西予市立野村病院 よしみ たつお 吉見 達雄

去った7月26日(土)、松山市のコムズを会場に第4回ソーシャルワーカーデーが開催されました。ソーシャルワーカーデーは、愛媛県社会福祉士会と愛媛県精神保健福祉士会、当協会のソーシャルワークを専門職とする3団体が2010年から毎年1回開催しており、新聞にも掲載されるなど世間にもソーシャルワーカーを認知してもらう機会ともなっております。今回のメインテーマは「災害をとおしてみるソーシャルワーク」～ソーシャルワーカーに何ができるか?～というものでした。講師には上野谷加代子先生(同志社大学社会学部教授)をお招きし、岡田多恵子さん(愛媛県社会福祉士会)をコーディネーターに、久幾田勢子さん(愛媛県社会福祉士会)、森本しげみさん(愛媛県精神保健福祉士会)、白石順也さん(当協会)がシンポジストとして、東日本大震災後の東北での実践ソーシャルワーク報告が約70名の参加者のもと行われました。まず、上野谷先生の「地域における災害ソーシャルワークの展開」の講演がありました。先生は、地域基盤のソーシャルワークを研究テーマともされており、「住みなれた地域社会のなかで、家族、近隣の人々、知人、友人などとの社会関係を保ち、自らの能力を最大限に発揮し、誰もが自分らしく、誇りをもって、家族およびまちの一員として、普通の生活(くらし)を送ることができるような状態を創っていくこと」の定義のもと地域ソーシャルワークの哲学のように聴き入りました。その中で、自立とは生きる姿勢であり、他者との共感関係でつくるという言葉が印象的でした。改めて、自立とは自分ひとりで身の回りのことができるようにすることではなく、さまざまな人的社会資源などを活用しながら生活できることなのだと感じました。白石さんは、被災地での活動についてスライドを用いて報告されました。短期間にて身体、心理、社会面での困っていること、今必要なことについてアセスメントを行うソーシャルワーカーの大切さを感じました。そしてその想いを形にかえていくことがソーシャルワーカーに求められていることだと思いました。被災地でのソーシャルワーカーの仲間の取り組みを知ることができる機会であり、今後も参加できればと思います。

特別研修『ソーシャルワークをめぐる動向と MSWに求められる相談面接技術』を通して



日時：平成 26 年 10 月 11 日

会場：松山リハビリテーション病院

四国がんセンター やまうち ひとみ
山内 瞳

大阪市立大学大学院生活科学研究科教授 岩間伸之先生による特別研修『ソーシャルワークをめぐる動向とMSWに求められる相談面接技術』に参加し、現代社会の実情と問題、対人援助のための面接技術について講義を受けました。先生は、地域での支え合いが崩壊し、制度に依存せざるを得なくなった現代社会において、時代のニーズに合わせたソーシャルワークが不可欠であり、平成 27 年 4 月に施行される生活困窮者自立支援法の理念を正確に認識した上で、展開していくことが重要であると述べられました。

また対人援助のための相談面接技術については、面接技術の構造・面接環境と、面接を展開する技法について講義をして頂きました。実践では、二人一組で紙上面接を行いました。話の分量や、感情・内容へのアプローチ、展開等の技術面に焦点を当て、適切な面接が行われたか検討を行いました。岩間先生より具体的なご指導も頂き、面接技法についてさらなる理解を深めることができました。今回の研修を通して、自身の技術力の乏しさに情けない気持ちでいっぱいになりましたが、同時にそのような自分を改めて見つめ直すことができました。日々の業務において、相談支援という役割を担いながら、果たしてMSWという専門性をもった働きかけができているか、その実践を説明できるほどの理論や根拠がそこにあるのか…残念ながら私には未だこれらについての的確に答えることができません。その反省とともに、理論的根拠に基づいた実践がいかに重要か、MSWの原点に立ち戻って考えることができた貴重な時間となりました。今後、目まぐるしく移り変わるだろう社会の動向を踏まえつつ、岩間先生より講義頂いた生活困窮者自立支援法における『総合相談』を念頭におきながら、専門性をもってクライアントを支え、「求められる役割」に応えていけるソーシャルワーカーを目指していきたいと思います。



基礎研修（前期）に参加して

日程：平成 26 年 6 月 28 日・6 月 29 日

会場：松山リハビリテーション病院

愛媛県立中央病院 こばやし 小林 さやか

私は、医療ソーシャルワーカーとして 3 年目になります。日々の業務の中で、自分の実践に悩むこともあり、基本的な知識の習得、MSW の役割、面接技法等について新たな気持ちで振り返りたいと思いました。また、経験年数の少ないソーシャルワーカーの方々の参加がほとんどなので、同じ目線からどのように日々の実践を行っておられるかを共有したいという気持ちもあり、参加を希望致しました。

まず、今回の研修で印象に残っていることは、相談援助面接の実践についてです。面接をするときの自分の顔の表情などをこれまで意識して面接を行えていなかったことに気付くことができ反省点となりました。研修の中では、鏡を使ったロールプレイもあり、自分が思っているよりも患者さんから見られているということを改めて実感しました。日々の多忙な業務の中で、ソーシャルワーカーとして病院の顔として働いている意識を忘れてはいけないなと思いました。

次に、アセスメントについてです。アセスメントは、ただクライアントから情報収集をするのではなくて、面接を通してクライアントのこれまでの人生や今後どう生きていきたいかを分かち合うものだ学びました。ソーシャルワーカーとして、その人の思いにどうすれば少しでも近づき寄り添えるかという視点を大切にしたいと考えます。また、ソーシャルワーカーは、全てに手を差し伸べていくことが仕事ではなくて、クライアントのエンパワメントを引き出していけるような支援をしていくことが求められるという振り返りから、今後の課題を見つけることが出来ました。

今回の研修を通して、他機関のソーシャルワーカーさんと同じ悩みを共有できたこと、ソーシャルワーカーになって嬉しかった経験や、やりがいを感じた経験等についての意見を交換できる機会になりました。また、新しい気付きや課題を見つけることのできたので、とても充実した研修となりました。この研修で学んだことを活かして、日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。



基礎研修（後期）に参加して

日程：平成 26 年 10 月 4 日

会場：松山リハビリテーション病院

伊予病院 やまもと 山本 えりこ 英里子

私は 10 月 4 日に開かれた後期基礎研修会に参加させていただきました。

研修に参加させていただくのは前期基礎研修会に続いて 2 回目です。前期基礎研修会に参加されていた方も多くいらして、顔を知っている間柄だったので、とても和やかな気持ちで研修に臨むことができました。

研修の内容としては、前半が、前期基礎研修の振り返り、MSWの歴史、愛媛県MSW協会の歴史等、後半がワールドカフェ形式でのワークショップでした。前半では、日本医療社会福祉協会が設立された当初は、「経済的問題の解決調整援助」に関する相談内容が多かったが、現在では「退院支援」の相談に関する業務比率が高まっていることなど、時代の変化とともにMSWの業務も変化してきたのだと思います。また、愛媛県MSW協会の設立から現在までの歴史をお聞きする中で、そもそもなぜ職能団体に入ったのかを改めて考えさせられ、自分がこの愛媛県MSW協会に所属させていただいていることに誇りを感じました。

後半のワークショップでは、私も含め、ワールドカフェというものを知らない方が多かったので、最初はどのように話を進めたらいいのか皆口数も少なかったのですが、慣れてくると色々な意見が出されて大変良かったです。普段、業務をする中での困った場面を皆で出し合い、それに対してMSWの価値・倫理を踏まえてどのような対応ができるのかを話し合いました。自分が今抱えている悩みに対して、色々なご意見、アドバイスを頂けて大変ありがたかったです。今後の業務に役立てたいと思いました。特に、①相手に「確認させて下さい」と情報を整理することの大事さ、②患者・家族の利益を最優先にしなければならないこと、③患者・家族の意向を代弁し他職種に的確に伝えられるような技術を育まないといけないこと、を学びました。

今回の研修で、「新人だからこそできることがある」と言っていただきとても励まされました。皆様、今後ともご指導の程どうぞ宜しくお願い致します。

平成26年度後期基礎研修
平成26年10月4日(土)
松山リハビリテーション病院にて参加者集合写真！！



ソーシャルワーカーデー



平成26年7月26日
同志社大学大学院
社会学研究科教授
上野谷加代子先生の講演



平成26年度特別研修



平成26年10月11日大
阪市立大学大学院生活科学
岩間伸之教授をお招きして
の特別研修

*****発見！！いよワーカーさん*****



氏名	しおざき あやか 汐崎 文香
所属	村上記念病院
生年月日	8月17日
好きな食べ物	アイスクリーム
嫌いな食べ物	にんじん
血液型	O型
趣味	おでかけ

①今の職種に就いたきっかけは？

人とかかわる仕事がしたいと考えて大学で福祉を学びました。その中でMSWを知って興味をもちました。他の分野で仕事も経験しましたが、MSWはさまざまな分野とかかわりを持ってカッコいいと憧れていました。地元の当院の募集にたまたま出会い縁があつて働かせてもらっています。

②今の職種に就いて良かったなあと思った時は？また反対に嫌だなあとすることは？

患者さんから「安心した」「MSWと話をしてよかった」など言ってもらえた時には仕事へのやりがいを感じます。また「同僚からも頼りにしている、お願いね」と声をかけられる時も頑張らなければと感じる反面、プレッシャーも…。患者さんの意向を聞いて、納得のいく解決策が見つけれなかった時には落ち込んでしまうことも多々あります。

③ストレス解消法や休日の過ごし方は？

家でのんびりも良いですが、外に出かけることが好きです。おしゃべりしておいしいものを食べて、いろんな物や人に出会ってよい刺激をもらっています。

もう一つ、数年前からよさこいを始めました。見るのも踊るのもたのしいですよ♪
松山・新居浜で練習しているので興味のある方は声をかけてくださいね～!!

④ワーカーとしてのモットーや信条、心がけていることは？

会話を大切にしています。そのためにも相談しやすい雰囲気づくりには気を配りません。病気になったことで落ち込まない人はいないと思いますが、そこで人生あきらめてしまうのではなくて、これから先のことを一緒に考えてくれる人がいると患者さんに安心してもらえるといいなと考えています。また、他職種より医療知識がまだまだ足りませんが、足を運んでいろいろな人と話をしてカバーできるように意識しています。

⑤会員へ一言！！

MSWを始めて3年目になりますが、まだまだ分からないことばかりの日々です。あまり例会にも参加できていませんが、皆さんと交流していきたいと考えていますので、今後もよろしく願います。



氏名	すみだ ともひで 隅田 知秀
所属	老人保健施設 伊予ヶ丘
生年月日	3月8日
好きな食べ物	焼肉
嫌いな食べ物	魚
血液型	A型
趣味	ランニング

①今の職種に就いたきっかけは？

高校生の時にMSWという仕事がある事を知り、福祉学部に進みました。大学生の時に実習に行った先で（介護保険施設ではありませんでしたが）施設のソーシャルワーカーの仕事を見て、施設のソーシャルワーカーになりたいと思いました。

②今の職種に就いて良かったなあと思った時は？また反対に嫌だなあとすることは？

良かったと思う時は、自宅退所希望の方のADLが向上して希望のサービスに繋ぎ、自宅退所の支援が出来た時です。嫌だなと思う時は、利用者さんとお別れする時は、やはり悲しくなります。

③ストレス解消法や休日の過ごし方は？

最近はランニングにはまっています。走っている時は悩んでいたことも考えずに、汗をかいて体もすっきりできます。走り終わった後に、案外悩んでいた事が小さく思えたり、解決方法を思いついたりする事があります。

④ワーカーとしてのモットーや信条、心がけていることは？

利用者さん本人の意向を大切にするように心がけていますが、家族の意向や施設の方針でケースを進めてしまったりする事があり、まだまだ、振り返ると後悔する事があります。基本は利用者さん本意という事を意識するようにしています。

⑤会員へ一言！！

伊予ヶ丘は相談員3人体制となり、今後定例会にも少しずつ参加していきたいと思っていますので宜しくお願い致します。



氏名	まつしげ あきら 松重 明
所属	たんぽぽクリニック 在宅療養何でも相談室 企画広報室
生年月日	4月30日
好きな食べ物	ラーメン ゴーヤチャンプルー
嫌いな食べ物	トマト
血液型	O型
趣味	座禅

①今の職種に就いたきっかけは？

以前、障がい福祉関係の仕事をしていて、社会福祉士を取得したので、別の分野も働いてみたいと思ったこと。

身近な人の死があり、終末期に在宅で過ごすこと、最期の時期をどう自分らしく過ごすかということに、興味があったため

②今の職種に就いて良かったなあと思った時は？また反対に嫌だなあと思うことは？

一人ひとりの患者様が人生の生き終え方を教えていただいているようで、その一時期でも関わらせていただいていることに大変感謝しています。

また、様々な研修会やイベントを企画、実施していますが、いろいろな人と出会えることも大変貴重な経験となっています。

嫌だなあと思うことは、・・・うまく調整ができなかったり、連携がとれなかったりする自分にもどかしさを感じることですかね。

③ストレス解消法や休日の過ごし方は？

週に1回、近所のお寺に行って1時間程座禅をしています。

静かな時間を過ごすことが心身のリフレッシュになっています。

それ以外は家族で過ごすことが多いです。

④ワーカーとしてのモットーや信条、心がけていることは？

相手の価値観を尊重すること。

個人的にはいつでも、平常心で前向きに行動することですかね。

⑤会員へ一言！！

研修会や退院前カンファレンスなど、お会いする機会があった時はぜひ気軽に声をかけてください！

愛媛県立中央病院



地域医療連携室

【所在地】〒790-0024 松山市春日町 83

地域医療連携室直通【TEL】(089) 987-6270【FAX】(089) 987-6271

【URL】<http://www.eph.pref.ehime.jp/epch/index.htm>

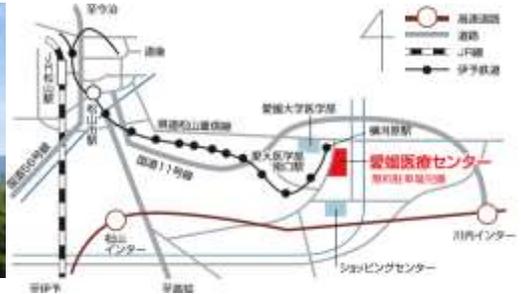
【病床数】827床（一般 824床・感染症 3床）

【診療科目】総合診療科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、漢方内科、新生児内科、ペインクリニック内科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、消化器外科、小児外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科・口腔外科

【病院紹介】当院は、救命救急センターを有する急性期病院です。手術や集中治療など、高度で専門的な医療が必要な患者さんを24時間いつでも迅速に受け入れることを基本方針としています。その為、日頃から緊急入院用の空きベッドを確保しておく必要があり、治療を終えられた患者さんには早期退院へのご協力をお願いしております。そういった病院機能を踏まえ、当院の地域医療連携室にはMSW4名・看護師2名の相談支援担当のスタッフが在籍しており、医師、看護師、外部機関等からの依頼をもとに、日々患者さんやご家族との面接を通じて支援をさせていただいております。相談内容は、退院先のことや治療方針のこと、経済的なこと、家族との関係、諸制度の利用など、治療後の生活に伴う内容が主となっております。当院での限られた時間の中で、我々MSWがどう関われば患者さんやご家族が次の一歩を踏み出すことができるのか？そんな思いを持ちながら、日々のソーシャルワーク実践に励んでおります。当院での入院期間が短く、連携機関の皆様にはご迷惑をおかけしていることと思っておりますが、今後ともご支援とご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



愛媛医療センター



【当院の紹介】

当院は平成 25 年に病院名を愛媛病院から愛媛医療センターに変更し、5 階建ての新病棟が完成しました。戦後は結核療養所としての役割を果たしてきましたが、現在では国立病院機構の病院として政策医療と地域医療の 2 本柱を使命としています。政策医療では神経難病、重症心身障害、結核の専門医療施設の役割、さらに新病棟にはポストNICU病床を設け、障害をもった小児医療にも力を入れています。地域医療については地域の一般急性期病院として機能しています。

【所在地】 〒791-0281 愛媛県東温市横河原 366

【診療科目】 内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科
外科、整形外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、
放射線科、糖尿病内科、麻酔科、歯科（入院患者に限る）

【診療時間】 午前 8 時 30 分～12 時 00 分

午後 13 時 00 分～16 時 00 分（呼吸器内科、循環器内科、消化器内科）

土・日・祝日・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）は休診

【病床数】 一般病床（200 床）、重度心身障害児（者）（160 床）、結核（20 床）

【地域医療連携室】

地域医療連携室では、紹介患者様の外来・入院・検査の予約をお取りしています。患者様の紹介時にはご相談下さい。

又、退院後の自宅での生活に不安がある方や、転院を希望される場合の病院選び、介護施設等へ入所希望の場合、情報不足などでお悩みの皆様の相談をお受けし、皆様と一緒に退院に向けて支援させていただいております。

【地域医療連携室 スタッフ】

医師（1 名）、看護師長（1 名）、看護師（2 名）、MSW（2 名）、事務（1 名）

【地域医療連携室 連絡先】

TEL : 089-990-1923 FAX : 089-990-1896

Eメール : renkei-enh@ehime-nh.go.jp

事務局

愛媛県医療ソーシャルワーカー協会の事務局は、毎月の会報発信、入退会の管理、会計業務を中心に当協会の活動がより活発で有意義なものとなるようにとの思いで関わらせていただいております。

今後も何かとご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、会長はじめ理事の皆様、教育部会、広報部会の皆様の力をお借りし、微力ではございますが、事務局の務めを果たしていきたいと思っております。

引き続き会員の皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。



教育部会

教育部会は会員のニーズを把握し、毎月の勉強会を企画・実行するのが主な仕事です。講師との連絡調整・当日の司会進行など緊張することも多いですが、活動はペアで行っていますので、ご安心下さい。おおむね、8人で4ペア作りますので、年間約2回例会を担当していただくこととなります。初年度には頼もしい先輩がついて手取り足取り指導してくれます。(2年目はあなたが新人さんを指導してくださいね)

年度始めには、1年の予定を決めるために集まり、その後はペアごとに活動します。もちろん相談や問題があれば随時リーダー・事務局との連携も行います。年度末には総括のために集まり、都合が合えばお疲れ会にて1年間のストレスを発散することも…。いつもは受身になりがちな例会も教育部会に入れば自分の興味があることを企画し進めることができます！またそこで繋がったネットワークや企画力などはその後の業務にも必ず役に立ちます！教育部会、かなりお勧めですよ～！！

あわせてほぼ毎月開催している月例会にも是非是非ご参加下さいね！！

